

西国巡礼慈悲の道

西国第二十九番

青葉山

松尾寺

不易流行・静坐と歩行

名誉住職 松尾心空

最近、近くの寺院に茶室の新築があり、早速拝見に参上したところ、例のじりから入る造りではなく、

するだに、椅子利用の時流は、生活の洋風化と共に至極当然のことであります。

土足で入れる椅子席でありました。聞けば、家元の茶道国際化の方針に沿ってのことと説明されました。思

ただ、畳があり、和服がある限り、正座も忘れてはならない伝統であり、遺風と化してはなりません。

えば、柔道でも体重別、柔道着の着色など、これも茶道国際化への時流でありま

漢字の惱という字は、脳の月を^{にんぎ}（心）に更えたものであります。脳が極めて重要な生理機能であること

しょう。仏事も椅子の利用が当然の事となってきました。

あの正座のしびれを想像

重要なのは、感情の激すことを、腹が立つ、或いは断腸の思いと表現しましたが、それがいつの間にか、頭へクル、になり、果てはキレルになっていきます。キレルとは、真つ白になった判断停止で、ここから思い設けぬ事態が生じかねません。

心は本来^{はら}肚に収めておくべきもので、そのため古来東洋では、坐禅、正坐の慣いを伝統として受け継いできました。特に臍下丹田に心気を凝らしめ腹式呼吸をすることは、落ち着きを取り戻すための最高のものであります。道教でも「腹

「真つ白」になることがあります。それは極度の緊張、興奮による機能停止に他なりません。

かつては感情の激すことを、腹が立つ、或いは断腸の思いと表現しましたが、それがいつの間にか、頭へクル、になり、果てはキレルになっていきます。キレルとは、真つ白になった判断停止で、ここから思い設けぬ事態が生じかねません。

「脳」という言葉のある所以です。目下、当寺では毎月市中で「静坐の会」を催して、激しい時流の中で少しでも落着きを取り戻したいと念じています。椅子席は「流行」、静坐は「不易」と申せましょう。

一方、二十年来、努めてきました西国札所の会（アリの会）は、多くの同行の参加を得、その通算距離も七千軒を超えましたが、今後とも続けて参りたいと念じています。禅の言葉に

「一寸坐れば一寸の仏、二寸坐れば二寸の仏」とある如く、「一步歩めば一步の仏、二歩歩めば二歩の仏」と念ずるからに外なりません。バス巡礼が「流行」ならば、徒歩巡礼は「不易」と申せましょう。

西国第二十九番

青葉山 松尾寺

まつのおでら

真言宗醍醐派

御本尊／馬頭観世音菩薩 開基／威光上人

そのかみは いくよへぬらん たよりをば

ちとせもここに まつのおのてら



観音風光

当寺山主の団体参拝客への法話は予約が必要。

門前の茶店で軽食可能

(冬期や臨時の休店あり)。

青葉山頂より日本海を見

遙かす風景は絶景である。

舞鶴市内では、引揚記念

館、赤レンガ博物館、近畿

第一位の眺望に選ばれた五

老岳、海上自衛隊の記念館、

自衛艦見学などがある。

宝物殿公開

春秋二季に国宝・重文を開

陳します。

主な年中行事

春季彼岸会

七日間 (先祖塔婆廻向)

五月七、八日 花祭大法要

八日に仏舞(重要民俗無形文化財)奉納

秋季彼岸会

七日間 (先祖塔婆廻向)

十月下旬 柴灯大護摩供養

その他

手洗のお札・ウスシマ明王

台所のお札・三方荒神

馬頭尊に因む競馬・ペット祈願

◎松尾寺山主著作集

「歩行禪」

「西国礼所古道巡礼」

「西国礼所徒歩巡礼地図」

「人生往来手形」

「極楽往生手形」

「即身成仏手形」

「現代いろは歌留多」

「人生まんだら」

「猫和尚さん」

「妖説水子地蔵」

「人生の達人」

「人はなぜ巡礼に旅立つのか」

〔以上、東京・春秋社刊〕

「歌僧天田愚庵

巡礼日記」を読む」

(東京・すずき出版)

〒625-0010 京都府舞鶴市字松尾532

TEL 0773-62-2900/FAX 0773-62-2028

納経時間 午前8時～午後5時

仏教用語一口解説

三毒(煩惱)とは

人間は生きている以上、心の中の煩惱によって苦しまねばなりません。この煩惱が「貧」「瞋」「癡」の三毒。つまり「貪欲」必要以上に物を求めるむさぼり。「瞋恚」自分の心にさからうものに対しての怒りや怨みの感情。「愚癡」差別する心や自己中心的な考え方から人を陥れようとする癡愚。いけない事と解っていてもついつい犯してしまう罪です。何時も心して罪を犯さぬよう懺悔の気持ちを大切にしなければなりません。